

# 令和5年度 事業報告書

社会福祉法人 肥後自活団

障害児入所施設の経営、障害者支援施設の経営及び障害福祉サービス事業の経営は、コンプライアンス(法令遵守)を徹底し事業展開ができた。5月に新型コロナが第5類に分類されたが、生活・活動等も従前のようにはなかなかできず、支援対応も含めて可能な限り充実させた。

地域の福祉活動についても、地域ふれあい祭り等を行い、実習生、ボランティア等の受入れにも積極的に取組、事業経営の透明性を図ることに努めた。なお、法人として虐待防止委員会、支援向上委員会等を年間を通して開催し、またSDGsにも取り組み、利用者支援の向上と支援の質の確保に努めた。

## 1. 肥後自活団業務

法人の理事会を年4回、5月、6月、11月、3月に開催し、定時評議員会は6月に開催した。事業報告、決算及び事業計画、予算並びに事業経営の課題等や役員の選任等を審議して承認、了承を得た。内部経理監査は状況を加味して2月の1回、監事監査は令和4年度分を5月に書面(郵送)により実施した。理事、監事及び評議員は、役割を認識してガバナンスを強化し、経営している。ホームページ等による広報啓発も行い、事業経営の透明性の確保に努めた。正職員は計63名で事業運営にあたり、採用2名、退職6名と異動はあったが、職員処遇全般の向上に努めた。非常勤職員を22名雇用し、サービスの質の向上に努めたが、今後も人材不足等に対応するために対策を考えて、採用、育成等を引き続き検討して実施する。また物価高騰やコロナ禍の影響も残るとみられ、今後も厳しい状況は続くがしっかりと対応していきたい。

## 2. 大江学園業務

### 入所部門

	5年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	6年 1月	2月	3月	月平均
措置	34	33	33	33	35	35	35	35	35	35	36	36	34.6人
契約	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	12	12	12.8人
計	47	46	46	46	48	48	48	48	48	48	48	48	47.4人

令和6年3月末までに高校3年生12人のステップアップ支援を無事に完了することができた。  
(内1人は、県技術訓練校への進学、住まいの場合はグループホーム)

年間を通してみると月平均47.4人と定員を充足できなかった。(一時保護児童の受け入れがあったため枠を確保)純然たる児童施設の維持、通過施設としての役割を果たせた。依然として子どもたちを取り巻く環境は悪化しており、地域社会からのニーズは引き続き高いと感じる。特に児童相談所からの依頼による一時保護機能として、今年度も多くの受け入れを中長期に行い役割を果たした。

子どもたちの生活の質(QOL)の向上を図ることはもちろん、保育士をはじめとする職員のワークライフバランスの充実を図り、人材確保につなげたかったが、残念ながら年度末に2人の職員が退職した。

昨年度改修工事を行った「昭和寮」の小規模ユニット化(サテライト型定員6名)の運用も開始した。子どもたちにとって、より家庭的な環境での生活空間となり、自立を促すことが今まで以上にできた。

今年度も児童施設としての役割機能強化に注力して、地域の中で必要とされる施設づくりを目指した。未就学児の個々の発達段階に応じた小学校への入学準備にも力を注いだ。子どもたち1人ひとりの権利を尊重する旨の勉強を行い、身体拘束や虐待防止をはじめとしたコンプライアンスの強化にも力を入れた。思春期を迎えた子どもたちの悩み相談・性教育に全職員で取り組み力を入れた。高校生については、個々の発達段階に応じた支援を学校と更に連携強化し、社会性を身につけさせステップアップ支援を早い段階から行うようにした。高校卒業、そして退園後のアフターフォロー支援にも相談支援事業所や教育機関との連携を図り、力を注いだ。「18歳成人」になったとはいえ、制度の隙間にある18歳から20歳到達までの支援を幅広く行うことができた。

居宅部門の日中一時支援事業では、感染症拡大防止や支援する職員の不足により利用人数を制限する措置を講じなければならなかったが、平日の朝夕の一時預かりに限定して、どうにか地域福祉のニーズにも応えることができた。地域の中での公益的取り組みも行った。今後も地域にある児童施設として、より地域に貢献できるよう相談支援機能の充実、そして地域の他の社会資源との連携強化、ネットワーク化を進め地域から期待される施設を目指したい。更なる子どもたちの健やかな成長の保障、安全安心を確保することができる環境が整い新たな支援を始めた年度となった。

### 3. 第二大江学園業務

令和5年度も、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律(障害者総合支援法)による障害者支援施設で、施設入所支援と生活介護のサービスを提供した。また、通所(生活介護)及びグループホームの事業も継続し、地域の中で基盤となる施設として、短期入所や日中一時支援もコロナ後の展開としてできる限り行った。

施設入所は、年間を通して42人の入所(7月に1人死亡)で生活の向上に努めた。入所利用者の平均年齢は約52歳となったため、加齢に伴う健康管理、体調の維持の難しさを職員も感じており、今後も看護師の指導をふまえて健康管理、体調の維持に力を入れていく。1名の方は、入退院を繰り返しており、病院とも連携しながら支援を行っている。園外活動を制限したり、また行事や家族等との外出、面会も少なくなっており、利用者の楽しめることを模索していきたい。

グループホームについては、13人の利用者が施設と隣接する地域の中で生活しており、外部に通所したりして1年を過ごした。通所による生活介護(デイセンター)も継続して行い、年間を通して約17人の利用者が日々入れ替わりで利用し、送迎、入浴等のサービスを提供した。

また、短期入所及び日中一時支援は、地域の中のセーフティネット事業として可能な限りの対応を行っているが、コロナの影響等もあり徐々にしか回復していない。

相談センターは、計画相談等を年間を通して行い、福祉サービス等の利用につなげている。地域における公益的な取組である生計困難者レスキュー事業も年2件対応して、食材料等の支援を行い、困っている地域住民等に手を差し伸べている。

虐待防止委員会を通して、利用者に対する支援の適正化にも取り組んでおり、職員が意識を持って支援の質の向上に努めている。職員の人材確保、育成にも取り組んでいるが、社会の中で厳しい状況が続いており、いろいろな方面の力を借りる等、また職員が工夫を出しあって今後も進めていきたい。

また、令和6年4月からの報酬改定により給付費収入等を検討しながら支援を継続していく。令和5年度も自己評価をするなど支援の質の向上に努め、危機管理等いろいろな知識習得に支援向上委員会等の委員会活動を利用して進め、SDGs持続可能な開発目標の取り組みも継続して行った。

令和5年度末現在の状況は、施設入所42人、生活介護(入所・通所含む)約70人及びグループホーム13人であり、昼夜分離した総合的な施設として事業を展開している。

#### 4. 生活及び活動の状況

給食サービスは、栄養管理(栄養バランス、生活習慣病予防)に基づいた普通食をはじめ、糖尿病や肥満等にもできる限り対応した。さらに、利用者個別に栄養ケアマネジメントを実施した。利用者の楽しみとして、弁当や誕生会等を可能な限り実施し、衛生管理では食中毒防止、衛生改善に努めた。

保健面では、6月と11月の定期健康診断を実施し、コロナ5類移行後も健康管理を難しい中で行った。インフルエンザの予防接種や疾病、外傷等には通院、入院で対応し、嘱託医の健康管理指導のもと、健康維持増進に努めた。感染症対策については、業務継続計画BCPを検討するなどして理解を深め、また対策等を検討して法人のリスク管理を行った。衛生面では、入浴を原則として毎日行い身体を清潔にし、伝染性疾患等の予防にも努め、学園内の清掃、整理整頓を心がけ、除草や樹木剪定伐採等の設備整備で環境緑化の向上を図った。

日中活動の内容は、フルーツキャップなどの軽作業、リサイクル及びEM活動並びに制作・個別活動を行い、歩行訓練も取り入れてコロナ禍の影響がある中でも可能な限りの充実を図った。余暇活動としてのクラブ活動等は部署別に可能な限り行い、班に分けて利用者をドライブに連れて行くなど利用者の精神面のケアにも努めた。行事については、お見知り会、地域ふれあい祭り、クリスマス行事及び餅つき交流会をできる限りで行い、地域との交流等も少しでも従前のようにできたと思う。利用者の個別の買物等、社会参加活動を行った。

スポーツ、レクリエーション等への参加は、施設親善スポーツ大会に参加して他施設利用者との親睦を深め、全国障害者スポーツ大会(鹿児島県)に数名の利用者が参加した。

危機管理対策では、非常災害に備えて委員会等を実施し、啓発に努めた。

生活及び活動の支援は、個別支援計画を基に福祉サービスを提供することが重要であり、サービス管理責任者等を中心にしての連携した福祉支援は行った。

#### 5. 職員の資質向上

職員研修は、OJTはもちろん、園内会議として虐待防止委員会(年5回)及び支援向上委員会(年5回)を計画し、職員の意識改革及び支援の質の向上に努めている。また、利用者の安全面・衛生面を話し合い勉強して、施設運営の強化を行った。また、外部でのOFF-JTは、研修会等に可能な限り参加して、理解を深め支援向上につながるように対応する。

外部講師に依頼しての中堅職員研修等は今年度は行わず、社会福祉支援専門のプロとして今後も職員が成長していけるように、いろいろな対応を考えていきたい。1人ひとりが高い意識を持ち、福祉サービスを展開していくことで、またSDGs持続可能な開発目標 等も意識して、法人及び施設全体の福祉サービスの質の向上に努めることとする。

福利厚生面は、職員親睦会による慶弔や福利厚生センター(ソウエルクラブ)への加入で、永年勤続表彰などを受けた。

人事評価制度も継続して行っており、目標をもって業務を行い、評価を行うことによって各自を成長させ、給与処遇や異動等に活かして、職員育成の一翼を担っている。

## 6. 地域交流活動

地域ふれあい祭り、もちつき交流会等を行ったことで、家族・学校関係者及び地域住民の方との交流も従前のようにできたと思う。ボランティア等の受入れが難しい状況が続くと思われるが、検討(工夫)して可能な限り進めていきたい。

実習生の受入れについても、学校側との協議を重ねて可能な限り対応している。福祉を担う人材育成、確保にもつながる大事なことであり、地域の中での社会福祉施設としての使命を果たす意味でも、がんばって対応していくこととする。

地域における公益的な取組である生計困難者レスキュー事業も、今年度は2件食材支援等を行って、地域の中で困っている人に手を差しのべることができた。

現在は難しい社会情勢であるが、今後も地域とのつながり方を考えていきたい。

## 7. 施設整備・設備整備

- ・学園内樹木剪定伐採手入れ
- ・大江学園大和寮娯楽室 床張り替え修繕
- ・大江学園大和寮娯楽室エアコン取替修理
- ・第二大江学園とろくガーデンエアコン修理
- ・第二大江学園デイセンター浴室(浴槽) 修理改善
- ・施設内消防通報設備修理 落雷による破損(火災保険対応)
- ・大江学園給食室 食器消毒保管庫 購入
- ・第二大江学園(東海側)門扉修理
- ・その他